

2026年度 大学入学共通テスト 現代文(本試験) 分析

試験時間 古典とあわせて 90 分

難易度	出題分量	出題傾向
前年よりやや難化した。とはいえ、昨年度が易しかったので、標準的な難易度に戻ったというだけである。設問も大学入試問題としては標準的。	総字数は第 1 問は増加、第 2 問はやや減少。第 3 問はやや減少だが、文字資料が増えたため、受験生は増加した印象を受けたであろう。	出題ジャンルは変化なし。設問は-1。前年より紛らわしい選択肢も増えてはいるが、昨年度が易しかっただけで、標準的な出題であった。
総評 前年よりやや難化した。標準的な難易度に戻ったということであろう。評論は随筆寄りで読みにくく感じた受験生もいただろうが、文章テーマはよくある芸術論で、しっかり勉強していれば内容理解は難しくない。小説は読み取りがやや難しいが、それ以上にノート問題が難化している。実用的な文章は表現活動に関わる問題で、形式に不慣れだと難しいだろう。		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	設問別分析
第 1 問	評論	45 点	随筆に近い評論で、やや読みにくさは感じるが、設問はオーソドックス。問 1 の漢字は平易。問 2、問 3 は標準的。問 4・5・6 がやや紛らわしい。しっかり勉強してきた生徒が報われる問題である。
第 2 問	小説	45 点	過去と現在を行き来しながら主人公の心情の変化を深く掘り下げた文章で、やや読みにくい。問 1・2・4・5・6(i)は標準的。問 3・6(ii)が難しい。
第 3 問	実用的な文章	20 点	文章の推敲と修正の問題。問 1・2 は平易。問 3 が難。(i)は選択肢の説明を一つずつ資料と照合するのに手間がかかる。(ii)は課題の目的を踏まえて考えることがポイント。

1・2 年生へのワンポイントアドバイス

まずは日々の国語の授業を大切に勉強すべきである。そのうえで+αの勉強を心がけたい。今年度の問題は旧センター試験と比較しても難易度は変わっていない。特に評論は過去問題の演習が有効になる。小説のノート問題は共テ新傾向だが、過去問や予想問題の類題が溜まってきているので、過去問や予想問題集で十分な練習を積み重ねれば対応できるだろう。第 3 問の文章推敲問題対策として、国語の授業で文章を書く機会があれば自分や友達の文章を推敲するトレーニングを積んでおくとういだろう。